Washington Japanese Language School 2024
ワシントン日本語学校（補習授業校）だより
令和6年 11 月 23 日発行 第 26 号
# はなみずき
mail:wjls@wjls.org http://www.wjls.org/

ワシントン日本語学校事務局
HOT LINE (301)962-7415
Phone (301)962-7410
FAX (301)962-7411

## いいふみの日

校長　三原　洋一

本日 11 月 23 日は、「いいふみの日」です。日本語の「いい（11)」「ふみ（23)」の語呂合わせからきており、1979 年（昭和 54 年）に日本の郵政省（現・日本郵政グループ）によって、手紙や文章を書くことの大切さを広め、親しい人へ心のこもったメッセージを伝えることを促す目的で始まりました。

手紙の良さが語られるときによく取り上げられる野口英世の母親、野口シカさんの手紙の一部を紹介します。（原文のままの文章です。）

おまいの　しせ（出世）には　みなたまけました
わたくしもよろこんでをりまする
はるになるト
みなほカイド（北海道）にいてしまいます
わたしも　こころぼそくありまする
ドカはやくきてくだされ
はやくきてくだされ　はやくきてくだされ
はやくきてくだされ　はやくきてくだされ
いしょ（一生）のたのみて　ありまする
にしさむいてわ　おかみ（拝み）
ひかしさむいてわおかみ　しております
きたさむいてわおかみおります
みなみたむいてわおかんておりまする
はやくきてくだされ
いつくるトおせて（教えて）くだされ
これのへんち（返事）まちてをりまする
ねてもねむられません

遠いアメリカの地に十年も離れて暮らす息子に、会いたくて､会いたくて、囲炉裏の灰に指で文字を書く練習をして、やっとのことで自分の思いを綴った手紙であると言われています。今からおよそ 110 年前の 1912 年（明治 45 年)、シカさんが亡くなる 6 年前の 59 歳、野口英世 36 歳の時の手紙です。

フリー百科事典『ウィキペディア(Wikipedia)』より

野口英世が 1 歳半のとき、自分の不注意で左手に大やけどを負わせた息子のことを思う

母親の思いが胸に迫ります。美しい文章ではありませんが、必死に思いをつづった手紙は読む者の心に響きます。思いを綴るとは、本来こういうものではないかと感じさせます。

この頃私自身も、年賀状以外で手書きの手紙を書く機会はほとんどなくなりましたし、受け取るということもほとんどありません。今は、電子メールや SNS が普及し、手軽で便利なことから、当たり前のように様々なことをこの通信手段を使って簡単にすませてしまいがちです。

子どもたちに文章を書くことの大切さを教えている大人として、もう一度書くことの大切さを見直してみたいと思います。

手紙を書くこと、文章を書くことは、言葉を大切にする心と表現する心を育てます。間もなく、日本では年賀状のシーズンがやってきます。こちらではクリスマスのグリーティングカードでしょうか。ご家庭でも、子どもたちと一緒に、お世話になった方やお友達にお話をするような気持ちで手紙を書いてみてはいかがでしょうか。文章を手で書くことの大切さを見直すよい機会になると思います。

## J.liveTalk スピーチコンテスト

先日、ジョージワシントン大学で開催された全米の日本語学習者を対象としたプレゼンテーションコンテスト、J.LIVE Talk（Japanese Learning Inspired Vision and Engagement Talk）の最終審査会に審査員として参加する機会をいただきました。このコンテストは、日本語学習者が自らの日本語力を試し、自己表現の場として挑戦するスピーチコンテストであり、従来のスピーチコンテストとは異なり、内容重視で継承語学習者にも広く門戸を開いています。多くの若者が熱意をもって自分の考えを日本語で伝える姿が非常に印象的でした。また、過去の入賞者には本校の卒業生もいたと伺いました。

審査員として各スピーチを聞きながら、発音や表現力、内容の独創性など多様な観点から評価を行いました。若い世代の真摯な姿勢や成長への意欲に触れ、審査する立場でありながら多くの刺激を受けました。

また、スピーチの内容には、SDGs に関するものや個々の学び、友情、文化の違いと理解といった多彩な内容が見られ、日本語を通した深い経験が語られました。ファイナリストたちは、それぞれのテーマに沿った自身の体験や視点を情熱的に語り、審査員や観客を惹きつけていました。

このようなイベントが今後も続き、より多くの学習者が日本語で自己表現できる場が提供されることを願っています。